

令和7年度 広島県立農業技術大学校評価シート(関係者評価)

| 評価基準(達成度) |           |
|-----------|-----------|
| A         | 90%以上の達成  |
| B         | 75~89%の達成 |
| C         | 60~74%の達成 |
| D         | 45~59%の達成 |
| E         | 45%未満の達成  |

|      |                        |                          |               |
|------|------------------------|--------------------------|---------------|
| 重点目標 | 1 定員の確保<br>4 カリキュラムの改善 | 2 進路指導の充実<br>5 職員のスキルアップ | 3 学生の学力・資質の向上 |
|------|------------------------|--------------------------|---------------|

| 課題番号 | 課題    | 現状   | 評価項目                        | 具体的方策  | 評価指標及び目標値   | 成果・達成実績  | 達成度                    | 次年度の課題と改善策   | 関係者評価委員意見   |
|------|-------|--|-----------------------------|--|---|--|------------------------|--|---|
| 1    | 定員の確保 | ・定員の充足率は、専修学校化以前(H17~H21平均 定員50名/1学年)は42%。専修学校化後(直近10年_H28~R07平均 定員40名/1学年)は66.3%となっている。<br><br>・近年の入学人数<br>R03 27名<br>R04 18名<br>R05 25名<br>R06 29名<br>R07 20名<br><br>・農業高校からの進学者は43%(R03~R07)。<br>R03 41%<br>R04 50%<br>R05 40%<br>R06 45%<br>R07 40%<br>R03~R07は実数で10名/年。 | 農業高校との連携                    | 1 県内の農業高校6校との連携した取組について農業教育連絡協議会で協議する。それぞれの高校単独での体験学習を提案、実施する。 | 1 農大の理解度向上<br>・農業連絡協議会WG会議で提案、実施校 2校  | 1 農大の理解向上<br>今年度も農業教育連絡協議会は開催されなかった。教育委員会から定例的な開催ではなく、「必要に応じて開催する」とこととなった。<br>広島県公立高等学校長協会農業部会の情報交換会に2回参加し、高校単独での体験学習を提案、8月28日沼南高校2年生21名が訪れた。<br>【実績】<br>学校訪問 沼南高校1校 | D                      | 農業高校に関連する行事には積極的に参加し、情報共有に努める。引き続き、高校単独の体験学習は積極的に受け入れる。  | 農業教育連絡協議会は令和8年度改めて活動を再開する予定。協議会の場で農業高校との連携について検討すること。 |
|      |       |  | 2 農業高校との授業交流により大学の認知度を向上する。 | 2 参加校、参加回数の向上【農業高校→農大】<br>・卒業論文公開発表会 参加農業高校 5校                 | 2 参加校、参加回数の向上<br>2月4日、卒業論文公開発表会を開催。農業高校2校が参加した(西条農業_教員1名、吉田_教員1名・生徒1名)。   | E  | 卒業論文公開発表会の開催案内は引き続き行う。 |  |   |
|      |       |  | 高校訪問                        | 3 県内高校への訪問を早期に行い、大学校について、進路担当教諭の理解を深める。                        | 3 高校訪問数<br>・学生募集 148校<br><br>・高校ガイダンス参加 10校   | 3 高校訪問数学生募集<br>・学生募集 146校<br>今年度も農業技術課の協力を得て、第1回オープンキャンパス前までを目標に実施した。<br>・高校ガイダンス参加 13校延べ20回(庄原実業、油木、沼南、世羅、黒瀬、安西、山陽、御調、呉工業、日彰館、尾道、安芸南、大竹)                            | A                      | 第1回オープンキャンパス前までに高校訪問を終えるよう早くから調整を進める。<br><br>農業高校以外の高校にも農大を知ってもらうため、高校ガイダンスには、積極的に参加する。            | 受験者数はある程度確保されており、大学校の定員確保に向けた努力は評価できる。                |
|      |       |  | 情報の発信                       | 4 ホームページ等の積極的な更新に努めるとともに、適時に大学校を紹介する。                          | 4 ホームページ等の積極的情報更新<br>・農大ニュース 20件<br>・農大SNS 150件   | 4 ホームページ等の積極的情報更新<br>・農大ニュース 14件(2月25日現在)<br>・農大SNS 176件(2月25日現在)<br><br>・Instagramプロフェッショナルボード「今月のまとめ」によると月別投稿閲覧数は最高9.2万回(8月)。                                      | A                      | 農大の日常をInstagramやHPを通じて継続して情報提供する。  |   |
|      |       |  |                             | 5 オープンキャンパスのPRに努め、参加者数を増やす。                                    | 5 オープンキャンパス<br>・開催回数 2回<br>・参加者数 50名<br>・アンケートによる評価「参考になった」100%<br><br>○学校見学会<br>・開催回数 1回<br>・参加者数 20名<br>・アンケートによる評価「参考になった」100% | 5 オープンキャンパス<br>・開催回数 2回<br>・参加者数 74名(延べ)<br>・アンケートによる評価「参考になった」96%<br><br>○学校見学会<br>・開催回数 1回<br>・参加者数 9名<br>・アンケートによる評価「参考になった」100%                                  | A                      | 1回目のオープンキャンパスの参加者は高校3年生が多数を占めることからこの参加人数確保が課題。<br>学校見学会は、見込みより参加人数が少ないが、参加者が受験につながることもあり、継続して実施する。 |   |

| 課題番号 | 課題      | 現状  | 評価項目   | 具体的方策   | 評価指標及び目標値  | 成果・達成実績   | 達成度  | 次年度の課題と改善策  | 関係者評価委員意見  |
|------|---------|---|--|---|--|---|--|---|--|
| 2    | 進路指導の充実 | <p>・農家出身の学生は入学生の中で36%（農家比率：親族に農業者を持つ者）であるが、経営基盤が十分でなく、卒業後すぐの自営就農率は卒業生のうち5%である。（過去3年平均）</p> <p>・農業法人等への就職就農は56%であり、一定の雇用の受け皿になっている。自営就農・研修を含めた就農率は67%に達した。（過去3年平均）</p> <p>・県農林水産局の関係各課とともに就農就職促進会議を組織し、各行事等を通じて学生の進路決定支援や情報提供を受けている。</p> <p>・進路の方向が定まらず、決定が遅れる学生が見られる。</p> | 進路別対応の実施   | 1 就農就職促進会議で関係機関と連携を進めながら、農業法人、農業関連企業のガイダンスを開催し、学生の意識を高める。   | 1 農業法人等雇用就農ガイダンスの開催<br>・ガイダンス開催数 2回<br>・ガイダンス参加企業数 20社（2回延べ数）<br>・行事を通じた採用内定者数 4名  | 1 農業法人等雇用就農ガイダンスの開催<br>・ガイダンス開催数 2回<br>・ガイダンス参加企業数 24社（2回延べ数）<br>・行事を通じた採用内定者数 8名 | A  | ガイダンスは、学生が農業経営体を知る重要な機会となっており短期インターンシップの取組みと合わせその充実を図る。また、関係機関と連携し、ガイダンス参加企業の増加を図る。 | エッセンシャルワーカーの育成も重要となっている。機械操作に長けている人材の養成も必要。          |
|      |         |   | 進路の方向決定早期化   | 2 就農先として捉えた農家体験学習先を選定する。  | 2 就職希望農業法人等での研修<br>参加学生数 10名<br>就農学生数 5名   | 2 就職希望農業法人等での研修<br>参加学生数 15名<br>就農学生数 12名   | A  | 体験学習がインターンシップとしての役割を果たしており効果が大い。体験学習先の選定にあたっては農業技術指導所等との連携を図りながら取り組む。               | 学生に派遣先が将来の雇用先の法人となりうることを丁寧に説明すること。勤務労働条件なども提示できればよい。 |
|      |         |   | 3 個別面談を実施し、進路意向を把握するとともに、進路の早期決定への意識付けを図る。それぞれの学生に対し、個別の支援を継続的に行う。 | 3 個別面談<br>・進路希望調査 各学年2回<br>・一斉面談 各学年2回<br>・採用試験エントリー支援<br>面接指導 30%（2年生のうち指導した学生割合）<br>履歴書支援 70%（同上）<br>・個別のキャリアカウンセリングの実施 100%（同上）<br>・就農率 66%（R6 52.2%）<br>・進路決定率 100% | 3 個別面談<br>・進路希望調査 各学年2回<br>・一斉面談 2学年2回、1学年1回<br>・採用試験エントリー支援<br>面接指導 27.6%<br><br>履歴書支援 51.7%<br>・個別のキャリアカウンセリングの実施 100%<br><br>・就農率 62.1%<br>・進路決定率 96.6% | A   | 進路決定ゼミや短期インターンシップにより、1年次から卒業後の進路について考えるよう意識付けする。キャリア指導班担当職員による進路面談において丁寧に意向確認し、本人希望を尊重した進路指導を実施する。 |   |  |

| 課題番号 | 課題              | 現状   | 評価項目       | 具体的方策                            | 評価指標及び目標値   | 成果・達成実績  | 達成度 | 次年度の課題と改善策   | 関係者評価委員意見  |
|------|-----------------|--|------------|----------------------------------|---|--|-----|--|--|
| 3    | 学生の学力・<br>資質の向上 | <p>・資格取得へ向けたゼミを学生の希望による選択制で実施している。</p> <p>・進路先が求めている能力に対して、学生それぞれがレベルアップしていくことが求められている。</p> <p>・学生間の学力の差が大きく、主体的・意欲的に学習に取り組む学生がいる一方で、実習に必要な基礎的な計算力が不足している学生もいる。</p> <p>・生活態度は全体的に良くなっているが、細かい点の改善が必要である。</p> | 資格取得の促進    | 1 学生のニーズに対応したゼミの開催により、資格取得を支援する。 | 1 各資格の取得目標（過去3年間の合格率の平均）<br>大型特殊免許 94%<br>けん引免許 87%<br>フォークリフト技能講習 100%<br>危険物取扱者(乙4) 18%<br>毒物劇物取扱者 17%<br>小型車両系特別教育 100%<br>ガス溶接技能講習 100%<br>アーク溶接特別教育 100%<br>農業機械士 77%<br>日本農業技術検定2級 24%<br>農業簿記検定3級 24%<br>家畜商講習 100%<br>園芸装飾3級 44%<br>家畜人工授精師<br>(本年度対象外) - | 1 各資格取得実績<br>大型特殊免許 85%<br>けん引免許 75%<br>フォークリフト技能講習 100%<br>危険物取扱者(乙4) 11%<br>毒物劇物取扱者 11%<br>小型車両系特別教育 100%<br>ガス溶接技能講習 100%<br>アーク溶接特別教育 94%<br>農業機械士 100%<br>日本農業技術検定2級 39%<br>農業簿記検定3級 22%<br>家畜商講習 100%<br>園芸装飾3級 80%<br>家畜人工授精師 - | D   | 10~11月に、主要行事と簿記検定・農業技術検定受験・毒物劇物取扱者試験が重なり、学生が勉強時間を確保できない状況にある。改善策として、簿記検定の受験を2年次の夏期に変更するなど、学生が受験のための準備時間を確保しやすい環境となるよう講義開催時期の見直しを含めて検討する。 | 「教える」スキルを考えると、高校の教員経験のある方を講師に迎えてもよいのではないかと。<br><br>ソリマチなどの農業簿記ソフトがあることを知るべきではないかと。操作できればなおよい。<br><br>資格取得だけでなく、農作業安全教育も行うこと。 |
|      |                 |  | 主体性・規律性の向上 | 2 学生が学習に意欲を持って取り組めるようカリキュラムを進める。 | 2 単位取得率 100%<br>(過去3年平均 95.5%)  | 2 単位取得率 (96)%<br>R6 96% R5 97% R4 96.5%  | A   | 1年生については、令和7年度の成績をもとに農力獲得チャートを作成し、新年度の個別面談により、2年時の学習意欲向上につなげる。   |  |
|      |                 |  |            | 3 生活指導監と連携した指導により、学生の主体的な取組を促す。  | 3 寮生活の改善状況<br>・生活指導監による生活指導と職員による指導を共有する<br><br>・寮委員の自律的・主体的に寮生活の改善を目的とした活動の支援（寮生による寮生のアンケート調査の実施と寮生活の改善1回<br>・寮委員会の開催数 2回<br>(生活指導監、寮役員、職員との意見交換の場を設ける)  | 3 寮生活での改善状況<br>・月1回生活指導監による朝会を実施<br>生活指導監日誌、連絡簿での情報共有を行った。<br>・寮委員による寮生アンケートは実施されなかった。<br><br>・寮委員会の開催 1回  | D   | 生活指導監と連携し、寮生活を通じ社会人力(マグネット移動など当たり前なのが当たり前)向上に取り組む。生活ルールを共有するため、寮委員会を定期的に開催する。  |  |

| 課題番号 | 課題        | 現状   | 評価項目                | 具体的方策  | 評価指標及び目標値  | 成果・達成実績   | 達成度  | 次年度の課題と改善策  | 関係者評価委員意見                          |
|------|-----------|--|---------------------|--|--|---|--|---|------------------------------------|
| 4    | カリキュラムの改善 | <p>・学生が自ら目的・意思をもって学習する探究型学習を一部講義に取り入れている。</p> <p>・令和3年から、スマート農業機器の導入や通信機器の整備を行っている。令和6年度から学内ポータルへの運用を始めた。</p> <p>・平成28年度から、独立就農を希望する学生を支援する農業経営体で長期研修を行う就農実践専攻を設置し、就農を促進する。</p> <p>・令和元年度から、実際の経営を想定し、経営・労務管理の感覚を養うことを目的とした模擬経営実習を取り入れた。</p> | 新たな専攻等設置と新カリキュラムの策定 | 1 探究型学習を導入した講義の改善<br>「講義満足度シート」を活用した意見の収集と講義への反映                                 | 1 満足度調査を実施した講義数<br>4科目   | 1 満足度調査を実施した講義数<br>1科目  | E  | 講義改善シートによる満足度調査を取りまとめ、講義改善の参考にする。                                     | 集落法人では、大型機械やドローンを操作できる人材が必要になっている。 |
|      |           |  |                     | 2 スマート農業教育の推進<br>講義・実習を通じ、学生の関心を高め、実際の実習場面で機器の活用を促す。                             | 2 実習でスマート機器を活用する学生割合(2年生)<br>70%   | 2 実習でスマート機器を活用する学生割合<br>66%   | A  | スマート農業機器も活用しながら、学生の意欲を引き出す取組みを進める。<br>導入機器メンテナンスなどの予算確保が課題            |                                    |
|      |           |  |                     | 3 デジタル機器を活用した学習環境の構築<br>・「学内ポータル」において、運用後の改善点の洗い出し                               | 3 デジタル機器を活用した学習環境の構築<br>・講義での学内ポータル活用(レポート提出など)した科目 22科目<br>・出欠管理アプリの試行実施。 | A   | 学内ポータルを活用し、レポート提出や講義資料の共有を引き続き進める。<br>気軽に職員が操作法などを相談できるしくみの構築が課題 |   |                                    |
|      |           |  |                     | 3 就農実践専攻の設置<br>研修先への就職就農を目指す学生のための専攻の設置<br>学生への周知、意向確認、受入経営体との調整等スケジュールに基づいた実施。  | 4 就農実践専攻の維持<br>・研修を通じ、就職就農を目指す学生への支援としての専攻を維持する。                           | 4 就農実践専攻の維持<br>1年生への周知、意向確認の実施<br>選択した1年生 0人<br>高卒すぐの学生には、6月に就農実践専攻を選択する覚悟が醸成されていない                   | E  | 「農大の将来の姿の検討」を継続する。就農実践専攻・模擬経営実習のあり方についても検討する。                         |                                    |
|      |           |  |                     | 4 模擬経営実習の設置<br>独立就農を目指す学生のため、自らの経営を想定した実習の設置<br>学生への周知、意向確認。運用上の課題を整理し、解決策を検討する。 | 5 模擬経営実習の維持<br>・学生自らの経営を想定した経営計画とその実践を取り組む実習を維持する。                         | 5 模擬経営実習の維持<br>1年生への周知、意向確認の実施<br>選択した1年生 0人<br>高卒すぐの学生には、経営計画のイメージができておらず、6月に模擬経営実習を選択する意思が醸成されていない。 | E  |   |                                    |
| 5    | 職員のスキルアップ | ・職員が授業や生活指導上の問題に効果的・効率的に対応できるようスキルアップのための取り組みが必要である。   | 研修への参加              | 1 各種研修への積極的な参加を呼び掛ける。  | 1 県内外で開催される研修への参加者数 9名   | 1 研修への参加者 のべ31名   | A  | 引き続き教育手法向上に有益な研修への参加を進める。<br>職員が現地に出向かなくても気軽に参加できる「アーカイブ配信」での聴講を企画する。 | 生成AIを活用し、講義資料や問題作成できればよいのではないか。    |
|      |           |  |                     | 2 教育委員会の新任研修へ参加<br>3名  | 2 教育委員会の新任研修へ参加<br>1名<br>・農業高校新規採用職員の研修に参加した。                              |   |  |   |                                    |